平成 21 年度　原子力・放射線部門新技術士講習会（一次・二次合格者合同）報告

日時：平成 22 年 4 月 9 日（金）　13:30～17:20
場所:葺手第二ビル 5 階　日本技術士会会議室（A,B）
参加者：来賓 3 名、二次合格者 14 名、一次合格者 0 名、部会員 14 名　　計 31 名

平成 21 年度の技術士（原子力・放射線部門）第一次試験及び第二次試験合格者を対象にした講習会が例年通り開催された（司会：鈴木幹事）。以下にその概要を報告する。

1.開会の挨拶　（原子力・放射線部会　林部会長）
初めに林部会長から、昨年に比べ合格率の低い今年の試験を突破された合格者への祝辞とともに、部門の新設に尽力され部会を支えてくださっている成合先生、工藤先生、柴田先生にご祝辞をいただくことが紹介された。

2.来賓より合格者への祝辞

・筑波大学　成合名誉教授
筑波大名誉教授の成合氏より合格者への祝辞があった。部会発足当時、原子力学会副会長であった成合先生らが中心となり、原子力学会から原子力部門設置を正式に要望した経緯を述べられた。現在は技術士制度活用について感心を持たれていること、開設されて間もない原子力・放射線部門の技術士に対する期待の大きさ祝辞の中で述べられた。

・JAEA　柴田 J-PARC センター客員研究員
JAEA 客員研究員の柴田徳思氏より合格者への祝辞があった。現在は J-PARC に勤務する傍ら文科省放射線規制室で技術参与として医療用加速器の遮へい設計等の相談を行っておられ、医療用加速器の過剰な安全設計に対する問題提起を頂いた。また、技術士としては技術を持つ事は当然で、技術と共に教養を高める事が重要であるとのエールを頂いた。

・九州大学　工藤教授（日本原子力学会　副会長）
原子力・放射線部門は技術士では最後発の部門であるが、試験の合格率は高いのは受験者が優秀であるからである。しかし、原産協会の資料では原子力技術者は約 30000 人であり、技術士の比率はまだまだ小さい。技術士数が更に拡大できるよう、合格者にも協力をお願いしたいとのお話があった。現在、産学官合わせたネットワーク作りと人材育成のためのネットワーク活動の強化が望まれており、技術士を活用すべきとの強い主張があった。

3.新技術士のための講習
部会幹事が分担し、下記の内容について講習が行われた。
1)日本技術士会の活動と技術士登録について　（岡村幹事）
2)CPD 登録及び技術士の特典及び APEC エンジニア、EMF エンジニア登録について（中野幹事）

3)原子力・放射線部会の活動について　（桑江幹事）
4)原子力・放射線部門技術士の制度利用について　（佐川幹事）
5)平成 22 年度技術士二次試験について　（成川幹事）

4.写真撮影

5.技術士合格者の自己紹介
・部下に資格取得を勧めるのに自分も勉強しなくては、と受験した。無事合格したのでこれからはどんどん資格取得を勧めたい。
・子供の受験などがあり、自分も勉強をしなければと受験した。これまでスポット的であった知識から全体を俯瞰できるようになった。
・レントゲン写真の線量の最適化などに技術士として取り組みたい。
・医療放射線技師の養成に携わっている、医療分野へ技術士の資格を広めたい。
・原子力有識者派遣事業、IAEA 海外技術協力に登録しており、技術士を活用したい。
・会社を退職し、原子力に自分が携わったと言う証が欲しく受験した。
・炉心設計を担当している、地域の人とのリスクコミュニケーションに技術士が利用できることを期待している。

6.先輩技術士からの祝辞
先輩技術士からの自己紹介と合格者に対する祝辞があった。部会への入会のお願いや活動への協力のお願いなどがなされた。詳細な内容は省略する。

7.懇親会
例年どおり部会ホームグラウンドの「串特急」で懇親会が行われた。名刺交換や技術士に関する議論など短い時間にも関わらず内容の濃い懇親会であった。